

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330085

研究課題名（和文） アフリカにおける民族の多様性と経済の不安定性の総合研究

研究課題名（英文） Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa:
Inter-disciplinary Dialogue

研究代表者

日野 博之（HINO HIROYUKI）

神戸大学・経済経営研究所・教授

研究者番号：40294243

研究成果の概要（和文）：

本研究の結果、これまで経済学で主に使われていた数量分析の手法が、この課題には必ずしも適切でないこと、一国家に多民族が併存することが、必ずしも経済成長を低め、経済を不安定化させないこと、が示された。更に、民族の特性は経済状況の変化を受け進化し、経済そのものも民族の特性の影響を受け進化することを明らかにし、相互に影響を与える様々なルートを判明した。これらの分析を基に、民族の多様性に対し取り組む政策の在り方を示した。

研究成果の概要（英文）：

This research established that (a) the quantitative methods which economists have mainly used to analyze the relationships between ethnic diversity and the performance of African economies are not necessarily appropriate for this purpose, and (b) ethnic diversity does not necessarily lower economic growth or increase economic instability. In addition, the research showed that ethnic identity and economy are mutually dependent, and identified the various routes through which ethnicity and economy affect each other.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2012年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2011年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2012年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
総計	13,200,000	3,960,000	17,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済政策、民族の多様性、アフリカ

1. 研究開始当初の背景

既存の経済学は、経済主体が同質であるとの仮定を基本として組成されているが、経済主体の異質性、あるいは豊かな多様性こそが今日のグローバル経済を形作るものである。本研究を開始した当初は、世界経済を一体化する流れが進む一方、国家ごとに異なる経済活動、政治・社会・法などの多様さが、より明

白に浮き彫りにされていた。また、市場原理に基づく現在のグローバル経済の構造が、必ずしも人々の厚生を最大化し、経済の安定をもたらすものでない事も明らかになってきていた。

経済学では、本研究を開始した頃に、経済主体の多様性を分析に取り入れる試みが盛んに行われていた。例えば、理論では、個人

や企業の経済主体を、これまでのように同質 (homogeneous) と仮定するのではなく、異質なもの (heterogeneous) として取り組み、市場経済の安定性等の特性を検証する研究が多くみられた。しかし、これらの試みは、多様性の一側面を捉えるもの、あるいは既存のモデルの枠組みでパラメーターを一部変えるもので、現実社会の多様性を反映するには至っていなかった。

理論的には、経済主体の選好が異質であっても、十分に同質で近いか、あるいは均等に分散している市場経済においては、安定的な均衡が存在することが知られている。しかし、この条件に合致すると仮定しうる国はそれほど多く存在せず、アフリカ諸国を含め、この仮定が成立しないケースが大多数であった。

また、実験経済学の研究により、経済主体の選好が多様である経済においては、市場メカニズムは経済主体の厚生水準が顕著に不平等である均衡に導きうるということが示されていた。この選好の多様性が民族に基づくものであれば、不利益をこうむる民族コミュニティに属する経済主体は、政治的な組織化を通じて、この状況を改善するために交渉力のあるグループを形成するであろう。もし、交渉がうまくいかなければ、不利益をこうむっている民族コミュニティは、集団で市場あるいは経済システムから退出するよう脅しをかけるか、実際に退出することができる。すなわち、市場原理が支配的な経済システムは、複数の民族コミュニティを擁する国では、内在的に不安定でありうるということが示唆されていた。しかし、本研究開始時点では、これらの研究は萌芽的なものであり、最終的な結論を得るには、より包括的な分析が必要であると考えられていた。

実証研究では、民族の多様性と経済成長の関係が、回帰分析で広く分析され、負の相関関係が検出されていた。しかし、この結果は、個別の事例研究で確認されてはおらず、負の関係の詳細は明らかにされていなかった。また、空間経済学で、民族の経済的特性が地域経済で補完的に作動していれば、民族の多様性は経済成長にプラスに働くことを示した。

また、民族の多様性と経済の不安定性に焦点を当てた実証研究は、本研究を始めた時点では、見受けられなかった。そこで、本研究で、空間経済学と実験経済学を地域研究・経済史・政治学・人類学と有機的に組み合わせ、民族の多様性と経済の不安定性のリンクを解明しようと試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、経済学、経済史、政治学、人類学を学際的に組み合わせ、アフリカを対

象に、民族の多様性と経済の不安定性のリンクを包括的に検証し、経済政策と経済制度への含意を導出することであった。多様な民族が混在する国家で市場メカニズムが安定的な均衡を導くものと前提し、経済政策を遂行することは妥当なのであろうか。民族の多様性と経済成長の間には、有力な学説で主張されるように、負の相関関係が真に存在するのであろうか。民族の経済的特性は、経済環境の変化に対応し進化するのではないだろうか。民族のつながりを基盤とする政治体制が、民族間の経済的格差を深化させ、経済を不安定にしているのではないか。

本研究では、理論、実証、実験、歴史的考察にケース・スタディーを加え、これらの疑問に答えつつ、分析結果から得られる見識を基に具体的な政策提言を行った。ケース・スタディーには、直近、民族間の亀裂を原因として紛争の発生したケニアを取り上げた。

アフリカ諸国は、過去 20 年間、市場ベースの経済改革を導入し、グローバル経済により深く統合されてきた。その間、経済成長率は顕著に増大し、インフレは収まり、国際収支は改善した。しかしながら、同時に、所得分配は不平等化し、絶対的な貧困が深刻化した。拡大する所得格差、蔓延する失業、ますます希少となる土地と水資源と結びついた社会的な摩擦は、多くのアフリカ諸国をより不安定にし、民族間の衝突等のショックに対してより脆弱にしていた。

しかし、アフリカの諸国で観察される不安定は、民族的に差異のあるコミュニティの併存によってもたらされることは確かではなかった。他に同じように重要な要因が作用していることを先験的に排除することは出来ない。あるいは、政治システムが民族の異質性を利用している可能性もあり、それが経済の不安定性をもたらしている可能性も考慮しなければならない。また、アフリカ経済で、市場経済システムが資源配分に果たす力は、どの程度支配的なものであるか定かではなかった。アフリカ研究で通常考えられているよりも国家の権力が強く、それが資源配分の不平等や貧困の深刻化を生み、牽いては経済の不安定化をもたらしているのではないだろうか。民族コミュニティの経済活動における特性や選好の違いは、どの程度有意なものなのであろうか。この違いは、市場経済の正常な運営を妨げるほどのものであろうか。

本研究では、これらの間を背景に、アフリカを対象に、民族の多様性の様々な含意を検証した。

3. 研究の方法

本研究の目的達成に不可欠と考えられる研究項目を、あらかじめ設定し、研究代表者・研究分担者・連携研究者及び研究協力者

が、各々の専門分野に属する項目を担当し、研究を遂行し、多くの論文を作成した。研究項目を、大きなテーマごとに、4つのグループに分け、半年から1年ごとに、1つのグループの研究を完了させ、本研究に参画する研究者全員が参加するコンファレンスを開催した。そして、コンファレンスでの議論で得たアイデアを糧に、各々の研究の更なる向上を目指した。

4つのグループの研究が完成した後、論文を纏め、コンファレンス・ボリュームとし編集し、最後に締めくくりとして、公開シンポジウムを開催した。更に、研究代表者が中心となり、経済政策及び経済制度への含意を中心に、本研究を集大成させ、一冊の本としてまとめた。

4. 研究成果

当初の企画では、5名の国内研究者に加え、海外から、18名の研究協力者の参加を求め、開発経済学・理論経済・経済史・人類学・政治学で構成する研究グループを構築し、共同研究を進める予定であった。しかし、実際には、3年間の研究期間を通し、当初の予定を超え、海外から計19名、国内から計49名の研究協力者が参加し、当初の想定を超えた成果を挙げた。

本研究では、当初の計画を大きく上回り計40本の論文が作成された。本共同研究のコンファレンスを計5回開催し（当初の計画は4回）、これらの論文を個々仔細に議論した。研究成果を、当初の計画通り、3冊の論文集として商業出版する予定で、編集作業をほぼ完了した。（1冊目は、昨年7月に刊行。）

研究内容としては、当初の予定どおり、民族多様性の経済への影響を、包括的また抜本的に分析した。また、経済実験、経済地理学等、この分野ではこれまで用いていなかった手法を導入し、分析手法の多様化も試み、以下の点を明らかにした。

- ・ 複数の異質な民族の併存が、市場経済の効率性、最適性、安定性に与える影響（下村論文）
- ・ 民族の多様性、その他、経済の不安定化要因（Shipton論文等）
- ・ 市場経済の導入がもたらした民族固有の経済的特性の変化。民族コミュニティ間の格差の現状とその要因。政治制度における民族の役割と経済の安定性との関連（Stewart, Berman論文当）
- ・ 多様な民族が併存する国家で経済安定化

に寄与する税制、地方自治制度、公共財の供給の仕組み。（Ghai論文当）

- ・ 民族の特性が補完的に作動し、地域経済の経済効率を高め、経済成長にプラスの要因となる分析事例（浜口論文）

これらの結果を踏まえ、ナイロビで、ケニヤ共和国首相を迎え、「負の民族性からの転換」をテーマに公開シンポジウムを開催し、ケニヤ政府のこの分野の政策構成に貢献した。同様に、ナイロビで、本研究の成果を基に、政策担当者を招き、Social Cohesion and Inclusive Developmentをテーマとするコンファレンスを開催し、ケニヤ政府の政策立案に貢献した。

日本の学会や政府・実業界への貢献としては、以下2点挙げられる。

1. 個人や社会の多様性がもたらす格差や摩擦や紛争、それに伴う国内あるいはグローバル経済の不安定化が、国際社会や開発途上国のみならず日本の大きな政策課題となっている。したがって、日本で、この分野の研究の学術的並びに実務的な需要が顕著に増大してきたが、日本でのこの分野の研究の蓄積は乏しかった。今後のグローバル化の中では、こうした知的な制約を打ち破ることが重要であり、本研究は、アフリカを例として取り上げ、日本の研究実績を作り上げた。

2. アフリカを始め、諸外国の経済内部の多様化に対応する戦略や政策を立案し実践に応用できる研究は、日本にとって益々重要になってきている。グローバル化の進展とともに日本経済は、相対的な地位を低下しつつあるが、このような状況下で、世界の多様な経済・市場・行動原理などを明確に理解することは、今後の日本経済の国際的な戦略立案にとって欠かせない。本研究は、日本政府の国際戦略や対途上国援助政策の基盤強化、国際機関の対アフリカ融資政策の新たな視点を提示した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌・書籍論文〕（計5件）

- ① Nobuaki Hamaguchi, 「Evidence from Spatial Correlation of Poverty and Income in Kenya」 Cambridge University Press, *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Interdisciplinary Perspectives* 2012, pp. 202-223. （査読有）
- ② Ken-Ichi Shimomura and Takehiko Yamato, 「Impact of Ethnicities on Market

Outcome: Results of Market Experiments in Kenya」 Cambridge University Press, *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Interdisciplinary Perspectives*, 2012, pp. 286-313. (査読有)

- ③ Hiroyuki Hino, 「Conclusion: Key Findings of Our Inter-Disciplinary Dialogue」 Cambridge University Press, *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Interdisciplinary Perspectives*, 2012, pp. 314-324. (査読有)
- ④ 高橋基樹 「開発のための公共性の構築—アフリカ政治経済論の新しい展開に向けて—」『国民経済雑誌』(査読無) 第203巻第4号、2011年、1-29頁
- ⑤ 濱口伸明 「民族多様性と紛争」『経済経営研究年報』(査読無) 第60号、2011年、9-20頁

[学会発表] (計8件)

- ① Hiroyuki Hino, “Youth Unemployment in Africa: Challenges and the Way Forward”, African Economic Research Consortium Senior Policy Seminar, Kigali, March 24-26, 2013
- ② Hiroyuki Hino, “Launch of *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Interdisciplinary Perspectives*” Public Symposium and Book Launch on the Research Project on Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa, July 25, 2012, International House of Japan (Tokyo).
- ③ Motoki Takahashi (with Bruce Berman), “Ethnicity in Africa: Overview of Issues and Prospects,” Brain Storming on GROWTH WITH EQUITY: *How Can Africa Flourish with Ethnic Diversity?*, July 23, 2012, International House of Japan (Tokyo).
- ④ Ken-Ichi Shimomura, Video “Presentation: Market Experiment on Ethnicity,” Brain Storming on GROWTH WITH EQUITY: *How Can Africa Flourish with Ethnic Diversity?*, July 23, 2012, International House of Japan (Tokyo).
- ⑤ Motoki Takahashi, “Scarcity and Governance: Overcoming Ethnic Confrontation over Resources in Africa,” *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Policies for Harmonious Development*,

Institutions and Policies for Harmonious Development in Africa, July 15, 2011, University of Oxford, UK.

- ⑥ Ken-Ichi Shimomura, “Impact of Ethnicities on Market Outcome: Results of Market Experiments in Kenya,” The 9th Joint Symposium between RIEB/Department of Economics, Kobe University and Hanyang Economic Research Institute/College of Economics and Finance, Hanyang University on “Economics and the Society”, June 10, 2011, Hanyang University, Korea.
- ⑦ Ken-Ichi Shimomura, Impact of Ethnicities on Market Outcome: Results of Market Experiments in Kenya, The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, May 13, 2011, Osaka University.
- ⑧ Nobuaki Hamaguchi, “Economic Effects of Clustering of Ethnically Similar Communities in Kenya: Application of Spatial Correlation Model,” *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Policies for Harmonious Development, Ethnic Diversity and Economic Instability in Kenya: Case Study*, November 6, 2010, Naivasha, Kenya

[図書] (計5件)

- ① Hiroyuki Hino (co-editor), Cambridge University Press, *Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa: Interdisciplinary Perspectives*, 2012, 335pp.
- ② 高橋基樹・川端正久ほか、晃洋書房、『アフリカと世界』2012年、420+xii頁
- ③ Hiroyuki Hino (co-editor), Social Cohesion and Inclusive Development: Case of Kenya, forthcoming,
- ④ Hiroyuki Hino (Co-editor) *Ethnic Diversity and Inclusive Development in Africa: Searching for the Way Forward*, forthcoming
- ⑤ Hiroyuki Hino (co-editor), Routledge, *Youth and Unemployment in Sub-Saharan Africa: Working But Poor*, forthcoming

[その他]

ホームページ等
日本語:

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/project/jica-joint/index.html>

英語:

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/project/jica-joint/index-e.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日野 博之 (HINO HIROYUKI)
神戸大学・経済経営研究所・教授
研究者番号: 40294243

(2) 研究分担者

高橋 基樹 (TAKAHASHI MOTOKI)
神戸大学・大学院国際協力研究科・教授
研究者番号: 30273808

濱口 伸明 (HAMAGUCHI NOBUAKI)
神戸大学・経済経営研究所・教授
研究者番号: 70379460

下村 研一 (SHIMOMURA KEN-ICHI)
神戸大学・経済経営研究所・教授
研究者番号: 90252527

(3) 連携研究者

寺西 重郎 (TERANISHI JURO)
日本大学・商学部・教授
研究者番号: 70017664